

令和7年度終業式 講話

1年間を振り返る令和7年度の終業式となりました。皆さんの学校活動の様子も含め、今年は4年に一度の冬季オリンピックやWBCもあり、人の生きざまから感じる感動の瞬間にたくさん出会えた1年だったと感じています。皆さんの学習の様子、進路に向かう姿勢、生徒会活動、部活動、どこを切り取っても皆さんの姿に美しさが見られたことも嬉しく思っています。昨今の若者たちのスマートな姿勢。熱く突き進みながらも互いをリスペクトし讃え合う、そんな姿を蟻高の皆さんからもたくさん感じ取ることができた、素敵な令和7年度であったことを嬉しく感じています。

さて、皆さんの姿勢が素晴らしいこともあり蟻高での時間は非常に穏やかであります。そうはいっても、明日何が起こるかわからないほど、時代が進んでいくスピードは速く、自然災害も多い日本では、危機管理や日常の備えの必要性も感じる昨今です。

皆さんは、「フェーズフリー」という言葉を耳にしたことはありますか？フェーズフリー。これは「日常はもちろん非常時にも役立つようデザインしよう」という考えです。防災の特別な備え というのは大ごとですね。実はいざという時に使えなかったりすることもあります。そうであれば、普段から災害時にも使えるものをつかっていけばよいのでは という考えです。例えば、スーツに合うようにフォーマルな靴を用意するとします。頻度が少ないであれば、がれきの上も歩けるクッション性を備えたフォーマルな靴はどうでしょう。また、例えば、濡れた紙や氷点下でも使えるボールペン。清潔な水がなくても常温で授乳できる赤ちゃん用のミルクなどです。徳島県の鳴門市教育委員会では「いつもと もしもが繋がる学校のフェーズフリー」を掲げて、教育現場での取り組みも始まっている様子です。災害の備えを「量」で確保するのではなく、質で充実させようという考え方はとても有効的であると感じます。教育の場でのフェーズフリーとして、例えば、小学生の算数で「速さ」を学ぶ単元があります。時速36キロで迫る津波の速さと、100m10秒で走る人間の足の速さを、問題意識を持って学びに取り入れる、このような「必要性のある学び」と、チーターと人間の走る速さを比べる問題とでは、雲泥の差であると感じます。皆さんの、今取り組んでいる探究活動に、このような「フェーズフリー」の視点で、社会の問題を自分事として考えながら取り組んでいく、「若者の視点」という、皆さんの目を、大いに期待したいです。今は浸透しているバリアフリーという考えも、誰かの、未来を思った温かな視点と、誰もが共存していくための未来社会を思って発信した、誰か1人の視点から出発したことであったことを、心に留めたいと思います。たった1人の力では無理と思わずに、皆さんの声の世界を変えていく。こんな楽しい未来を考えると、今の時間も充実していくのでは と、私自身もこの年になっても感じています。

あと10日ほどで、令和8年度となります。高校入試の志願者数をみても、どれほど「蟻ヶ崎高校」が行きたい高校として、中学生から思われている学校であるか、地域からどんな見られ方をしているかがわかります。そしてそんな蟻高を作っているのは皆さんである自覚をしっかりと持ちながら、皆さんには次年度も素晴らしい時間を過ごせますよう期待しています。

今年度を振り返り、新しい春を待ちわびながら、しっかり準備をし、4月6日の始業式に、元気でお会いしましょう。